

事例 13 特別支援学校のOJT実践事例

相談担当者の専門性向上のために学びの場をつくる

【地域支援部長として】

教育相談や就学相談などの相談業務は担当者が一人で相談に応じることが多く、そのノウハウが他の教員と共有されにくいという課題があった。そのため、初めて相談を担当する教員は、不安の中で業務を進めることも少なくなかった。そこで、相談担当の教員がペアで相談の対応をしたり、学習会や事例検討会を実施したりするなど、学びの場をつくることで相談担当者の専門性の向上を図った。

〈取組の内容〉

○ペアで業務を担当し、学ぶ機会をつくる

相談者の了解が得られた場合に限り、先輩教員が行う相談業務に経験の浅い教員も同席して、保護者や子どもに関わる際のノウハウを直接見て学ぶ機会とした。先輩教員と一緒に相談の対応をしながら経験を重ねるよい機会となった。

○学習会や事例検討会を通して、主体的に学ぶ場をつくる

学習会や事例検討会を定期的実施し、経験の浅い教員が教育相談について学ぶ場を設けた。参加者が自身の相談事例を紹介し合ったり、その中でよい取組を共有し合ったりし、「自分だったらこうする」という意見を伝え合えるように「一人一言」発表を心掛けた。お互いの意見を認め合うことで、それぞれの学びを共有しながら参加者が主体的に学べるようにした。

○学んだことを生かし、広げる

学習会で学んだことや話題になった内容を盛り込んだ「地域支援部通信」を発行し、参加しなかった職員にも配布した。

また、特別支援学校におけるセンター的機能充実事業として、地域の小中学校等の教職員を対象とした「特別支援教育研修」を実施した。学習会等で学んだ教員に講師を任せることで、日頃の学びを生かす場面となった。

これが成功の鍵！

⑤得意分野や指導力のある教員から学ぶ場をつくる

校内支援体制を充実させる過程で、経験の浅い教員が実践や体験の中から学び成長していく環境をつくるのが大切です。

②ほめる、認める、達成感を与える

学習会では、参加者の意見をできるだけ認めることで意欲を高められるように心掛けました。

また、学んだことを生かすために、研修会の講師などを任せて、自身の成長の様子を実感できる場をつくりました。

【経験の浅い教員の声】

先輩教員の相談業務に同席し、保護者や子どもとの接し方を具体的に知ることができました。

学習会では必ず発言の機会があるため、緊張しますが、内容について自分なりに考えるよい機会になっています。

【先輩教員の声】

経験の浅い教員に関わる際には、「育てる視点をもちつつ、一緒に学んでいく」を目標にしています。お互いのよさをどんどん取り入れて学び合うことで、それぞれがパワーアップすることを心掛けました。



事例検討会の様子

〈取組の成果〉

- ・経験の浅い教員は、相談担当者としての自信が付き、相談業務の専門性をさらに高めようという意欲も向上した。
- ・「地域支援部通信」の配布などを通して、学習会の内容が多くの職員に周知され、相談業務を担当する教員以外からも「学習会に参加したい」「一緒に勉強したい」という声が聞かれ、学校全体に学びの輪が広がった。